

2024 年度 RC 活動実績と 2025 年度 RC 活動計画

☆☆☆：目標達成 ☆☆：ほぼ達成 ☆：一層の努力が必要					
	RC 中期計画 2026（2024 年～2026 年） （◆：「Grow UP 2026」KPI その他：RC 目標）	2024 年度 RC 活動計画 (MGC)	2024 年度 RC 活動実績	評価	2025 年度 RC 活動計画 (MGC)
労働安全衛生	○MGC グループ会社と協力会社の労働災害撲滅を目指す。労働安全衛生に影響する様々な要素を評価・見える化し、網羅的な改善対策への土台を構築する。 【2026 年度までの労働安全衛生の定量的目標】 ◆重大労働災害 ¹⁾ 0 件 MGC グループ 休業災害、通院 3 回以上の不休災害 0 件 MGC 協力会社 度数率 0.3 以下 強度率 0.003 以下 MGC グループ協力会社 労働災害の定量目標化の検討	(1) 事業所の特色有る日常安全活動の充実と確実な対応 (2) 類似労働災害の撲滅（「墜落・転落」および「転倒」災害、事業所が危惧する労働災害への対応） (3) ヒューマンエラーと不安全行動の防止に向けた活動の推進 (4) MGC グループ保安防災ガイドライン【安全文化】の活用 (5) LINK 活動等の自律的な安全活動の推進 (6) 協力会社の労働災害削減の支援推進 (7) 職場環境の評価と改善の推進 (8) MGC グループ協力会社の労働災害 度数率、強度率の調査《本社》	(1) 事業所の特色有る日常安全活動の充実と確実な対応 ・ 5S、ヒヤリハット摘出、KY、職場での安全ミーティングに加え、月毎にテーマを変えたキャンペーンの実施、KY 手帳を用いた過去事例の教育、環境ニュースの発行、個人安全宣言、安全対話、安全スピーチなど事業所に合わせた特色ある日常の安全活動に取り組んだ。 ・ TPM 活動を計画に沿って、職場主体の安全活動に取り組み、安全パトロールで実施状況の確認を行った。	☆☆	(1) 事業所の特色有る日常安全活動の充実と確実な対応 (2) 類似災害の撲滅（事業所が危惧する災害への対応）（保安防災コード共通） (3) ヒューマンエラーと不安全行動の防止に向けた活動の推進（保安防災コード共通） (4) MGC グループ保安防災ガイドラインや第三者機関の評価結果を活用した改善活動（保安防災コード共通） (5) 協力会社の労働災害削減の支援推進 (6) 国内 MGC グループ協力会社の労働災害調査と定量目標化 《本社》 (7) 設備管理の充実による物的要因の削減 (8) 保安防災上の危険源の特定、プロセスリスクアセスメント（HAZOP 等）の計画的な実施 《工場》 (9) MGC スマートファクトリー実現（テクノロジーの活用） (10) 最新情報を基にした地震・津波・降灰等の突発型自然災害、及び風水害等の進行型災害への確実な対応
			(2) 類似労働災害の撲滅（「墜落・転落」および「転倒」災害、事業所が危惧する労働災害への対応） ・ 「転倒、墜落・転落」「被液」など発生が多い労働災害には、キャンペーンを行い、再発の防止に努めた。 ・ 転倒、墜落、転落の危険個所を見直し、表示等の安全対策を実施した。高所作業の親綱設置を計画的に進めた。		
			(3) ヒューマンエラーと不安全行動の防止に向けた活動の推進 ・ 改善発表会、外部講師による講演会、過去のヒューマンエラー事例や作業手順書の読み合わせ、指差呼称の定着運動等により、ヒューマンエラーの防止に取り組んだ。ナッジやおせっかいありがとう運動の工夫も見られた。 ・ KY サジェストシステム（MGC-KYAS）の機能改善を図った。		
			(4) MGC グループ保安防災ガイドライン【安全文化】の活用 ・ MGC グループ保安防災ガイドラインを用い、RC 監査、内部監査を行った。 ・ RC 監査指摘、チェックリストの監査結果にガイドラインを活用し対応した。		
			(5) LINK 活動等の自律的な安全活動の推進 ・ 製造、工務、研究、充填荷役の 4 部門で LINK リーダー会議を開催し、安全管理の手順、事故事例の研究、良好事例を共有し、安全活動の推進を図った。		
			(6) 協力会社の労働災害削減の支援推進 ・ 協力会社と災害防止協議会等を開催し、災害事例等の安全情報の提供、安全管理手法や仕組みの提供を行い、協力会社と共に安全な職場づくりに取り組んだ。 ・ 安全道場、プロセス道場など会社の教育設備を開放し、構内協力会社社員の教育を行った。工事協力会社への VR 安全体感訓練を実施した。 ・ 協力会社から出されたヒヤリハットや改善提案を活用し作業環境の改善に取り組んだ。		
			(7) 職場環境の評価と改善の推進 ・ 安全衛生パトロール、産業医パトロールを実施した。 ・ 化学品リスクアセスメント、作業環境測定、ドラフト風量、照度測定を実施した。		
			(8) MGC グループ協力会社の労働災害 度数率、強度率の調査《本社》 ・ データを収集、解析を継続している。		

	RC 中期計画 2026（2024 年～2026 年） （◆：「Grow UP 2026」KPI その他：RC 目標）	2024 年度 RC 活動計画 (MGC)	2024 年度 RC 活動実績	評価	2025 年度 RC 活動計画 (MGC)
保 安 防 災	○事故ゼロの達成を目指す。保安防災に影響する様々な要素を評価・見える化し、網羅的な改善対策への土台を構築する。 【2026 年度までの保安防災の定量目標】 ◆重大事故 ²⁾ 0 件 ICCA スコア年間 0；（MGC グループ・協力会社）	(1)設備管理の充実による物的要因の削減 (2)類似事故等の撲滅（「漏洩事象」、事業所が危惧する事故等への対応） (3)人的要因（「報連相」、「監視不十分」など）に伴う事故等への対策推進 (4)保安防災上の危険源の特定、プロセスリスクアセスメント（HAZOP 等）の計画的な実施《工場》 (5)MGC グループ保安防災ガイドライン【安全基盤】の活用 (6)LINK 活動等の自律的な保安防災活動の推進 (7)MGC スマートファクトリー実現、新技術の導入 (8)保安教育・習得学習の充実 (9)最新情報を基にした地震・津波・降灰等の突発型自然災害、及び風水害等の進行型災害への確実な対応	(1)設備管理の充実による物的要因の削減 ・点検表の精査、日常点検の強化を行った。 ・計画的な老朽化修繕を実施した。 ・検査用スプール図の整備、活用による全体管理を実施した。	☆☆	※保安防災の活動計画は労働安全衛生と共通です。
			(2)類似事故等の撲滅（「漏洩事象」、事業所が危惧する事故等への対応） ・過去事例対策の再検証、追加対策実施した。 ・センサー追加によるアラームマネジメント強化した。 ・官公庁からの指摘やコメントに対応し、要則類見直し、保安管理システム維持、向上を図った。		
			(3)人的要因（「報連相」、「監視不十分」など）に伴う事故等への対策推進 ・ヒューマンエラー事例の抽出し、検証、対策を実施した。 ・手順のわかりにくさ、曖昧な伝達、紛らわしい警報、掛持ち作業等のヒューマンエラー要因を再確認した。 ・新入社員の初回作業で、SOP を基にした教育や立ち合いなど強化した。		
			(4)保安防災上の危険源の特定、プロセスリスクアセスメント（HAZOP 等）の計画的な実施 ・外部講師による教育、プロセス道場などで HAZOP 教育を行った。 ・計画に沿って、HAZOP を推進した。		
			(5)MGC グループ保安防災ガイドライン【安全基盤】の活用 ・MGC グループ保安防災ガイドラインを用い、RC 監査、内部監査を行った。 ・RC 監査指摘、チェックリストの監査結果にガイドラインを活用し対応した。		
			(6)LINK 活動等の自律的な保安防災活動の推進 ・製造、工務、研究、充填荷役の 4 部門で LINK リーダー会議を開催し、安全管理の手順、事故事例の研究、良好事例を共有し、安全活動の推進を図った。		
			(7)MGC スマートファクトリー実現、新技術の導入 ・DX 技術（タブレット/ドローン等の活用、異常予兆検知システム、装置運転ノウハウ AI 等）を生産設備、関連設備およびそれらの運転、保安、設備管理等に積極導入し、「ゼロ・ファクトリー」の実現を図った。 ・熱中症判定カメラ、雷予測情報システム検証中。		
			(8)保安教育・習得学習の充実 ・外部講習/セミナー（高圧ガス、危険物関連、山陽人材育成講座等）、保全塾、化学塾、VR 教育等により、保安防災知識と意識の向上を図った。 ・H0 環安品証部案内のセミナー等（化成協・日化協主催等）を受講した。		
			(9)最新情報を基にした地震・津波・降灰等の突発型自然災害、及び風水害等の進行型災害への確実な対応 ・最新のハザードマップを入手し、防災規程、タイムラインを見直した。 ・防災訓練や複合災害の総合防災訓練を実施した。		

	RC 中期計画 2026（2024 年～2026 年） （◆：「Grow UP 2026」KPI その他：RC 目標）	2024 年度 RC 活動計画 (MGC)	2024 年度 RC 活動実績	評価	2025 年度 RC 活動計画 (MGC)
環境保全	○企業活動を通じて社会貢献と自然環境の保全の両立を目指す。その結果社会からの評価の向上を得る。 【2026 年度までの環境保全の定性/定量目標】 (1)◆2026 年度 GHG 排出量 2013 年度比 33%削減 (MGC グループ) ◆対基準年省エネルギー改善率 1.0%/年 (MGC グループ) (2)廃棄物のゼロエミッション ◆廃棄物ゼロエミッション率³⁾ 1.2%以下 (国内 MGC グループ) 廃棄物ゼロエミッション率³⁾ 0.2%以下 (MGC) (3)2026 年度「廃プラスチック類」排出量 2023 年度比 10%削減 (MGC) (4)水資源保全 水再利用率 95%以上 (MGC) (5)生物多様性保全 生物多様性の「目に見える現場」の設置取り組み推進 (MGC)	(1)温室効果ガス (GHG) 排出量削減の推進 (2)廃棄物のリサイクル促進と資源の効率的な使用等を通じての最終処分量の削減 (3)産業廃棄物の「廃プラスチック類」排出量削減 (4)-1. 水資源の効率的使用の推進《工場》 (4)-2. 各事業所における水リスクの特定活動推進《本社、工場》 (5)生物多様性保全の取り組み推進 (6)環境貢献製品の取り組み推進《本社》 (7)環境管理 (EMS) の継続的改善《本社、工場》	GHG 排出削減 - 照明の LED 化、エアコンやポンプなどの高効率機器への更新、製造設備の運転条件見直し等、保温保冷やスチームトラップの適正管理、継続的な GHG 削減活動を実施した。 - 再エネ電力の導入と非化石証書の購入を行った。	☆☆☆	(1)温室効果ガス (GHG) 排出量削減の推進 (2)廃棄物のリサイクル促進と資源の効率的な使用等を通じての最終処分量の削減 (3)産業廃棄物の「廃プラスチック類」排出量削減 (4)-1. 水資源の効率的使用の推進 《工場》 (4)-2. 各事業所における水リスクの特定活動推進 《本社、工場》 (5)生物多様性保全の取り組み推進 (6)環境貢献製品の取り組み推進 《本社》 (7)環境管理 (EMS) の継続的改善 《本社、工場》
			廃棄物削減 - 廃棄物削減と 3R の推進 - 乾燥汚泥の発生量削減と肥料での売却、分別回収の徹底、蒸留でのリサイクル、試作に使用した樹脂の売却、触媒から金属回収による有価化、燃料化など廃棄物削減に取り組んだ。		
			水資源保全 - 安定運転と水の再利用により、水資源の効率的な使用に努めた。 - 水使用量を調査し、結果を Web サイトで公開した。 - 水に関するリスク／機会事例を調査し、調査結果を CDP 水セキュリティ質問書の回答に反映させた。		
			生物多様性保全 - 海辺の保全活動、植林、植樹など地域の活動に参加した。 - 工場周辺の清掃活動を継続した。 - 新潟の浜サンベの調査を終了。新潟を中心にビオトープや自然保護の対象地を検討している。		
			大気、水質 - スクラバーの設置により大気汚染物質の排出量削減を行った。 - 廃棄物処理施設から出る排ガスの分析を行い、結果を公表した。 - 排水の分析を行い、排水処理設備の適切な管理を行った。		
			騒音、振動、臭気 - パトロール実施により、周辺住民へ与える環境影響（騒音、振動、臭気など）の低減を継続的に実行した。 - RC 監査で環境管理システムに問題ないことを確認した。		
			PRTR - 冷水塔への添加ヒドラジン濃度の適正化、PRTR 非該当物質への置き換えにより、PRTR 対象物質の排出抑制を図った。 - PRTR 法届け出対象物質の排出量を調べ、Web サイトで公開した。		
			環境貢献製品 サス室、広報と連携して、環境貢献製品のホームページ更新中。MGC グループとしての掲載、ISCC PLUS 認証の表記を行った。		
			環境管理 (EMS) - 環境管理計画(エネルギー管理部会、環境保全部会)に沿って実施した。 - 著しい環境側面の設定、見直しを実施。内部監査、RC 監査で確認した。		

	RC 中期計画 2026（2024 年～2026 年） （◆：「Grow UP 2026」KPI その他：RC 目標）	2024 年度 RC 活動計画 (MGC)	2024 年度 RC 活動実績	評価	2025 年度 RC 活動計画 (MGC)
化学品・製品安全	○化学品・製品の性状と取り扱い方法を明確にし、全ての取扱者の安全と健康、環境を守る。 製品開発における安全評価、取り扱う製品のリスク評価と管理、各国の化学品管理法規・規制に対して確実な実施・対応を行う。 【2026 年度までの化学品・製品安全の定性/定量目標】 (1) 製品開発における安全評価の段階的な実施（継続） 新規製品の上市・市場開拓の審査 100%（製品数%） (2) 各国の化学物質管理法規に基づく申請・登録の確実な実施（継続） 各国の化学物質管理における物質登録 100%（製品数%） (3) 安全性情報（SDS）の確実な伝達 安全性情報（SDS）の作成と交付 100%（製品数%） (4) 各国の化学物質管理法規及び規格等改正への対応	(1)-1. 開発物質・製品の安全性評価の実施（新規物質の申請、危険有害性の分類、安全性情報の作成、リスク評価） (1)-2. 上市・市場開拓審査の実施 (2)-1. 取扱製品の適用法規及び安全に関する教育の実施 (2)-2. 各国の化学物質管理法規情報の収集および登録制度への対応 (3)-1. 主要外国語版 SDS における記述の最適化 (3)-2. MGC グループ会社が SDS 作成システムを利用できる環境の提供、顧客への SDS の適切な交付 (4) 労働安全衛生法大改正への確実な対応	(1) 開発物質・製品の安全性評価の実施 ・開発物質の安全性試験を実施し、上市・市場開拓審査で安全性評価を実施した。 ・化審法少量新規登録、安衛法少量新規登録を行った。	☆☆☆	(1)-1 開発物質・製品の安全性評価の実施（新規物質の申請、危険有害性の分類、安全性情報の作成、リスク評価） (1)-2 上市・市場開拓審査の実施 (2)-1 取扱う製品の適用法規及び安全に関する教育の実施 (2)-2 各国の化学物質管理法規情報の収集および登録制度への対応 (3)-1 MGC グループ会社が SDS 作成システムを利用できる環境の提供 (3)-2 顧客への SDS の適切な交付、交付記録の管理 (4) 安衛法、化審法、毒劇法に代表される国内化学物質管理法規制への対応確認
			(2) 取扱う製品の適用法規及び安全に関する教育の実施 ・取扱い製品に適用される安衛法改正などの情報を収集し、事業所とグループ会社に配信した。 ・カーリットによる危険性評価セミナーを開催した。 ・化学物質登録のための支援を行った（米国、EU、英国、韓国、トルコ、台湾）。		
			(3) 主要外国語版 SDS における記述の最適化 ・定期的に英語版 SDS の内容を確認した。 ・RC 内部監査で各部門に確認し、適正な運用を確認した。 ・関係会社の協力で、中国語、タイ語の翻訳語を見直した。		
			(4) 労働安全衛生法大改正への確実な対応 ・化学物質管理責任者、保護具着用管理責任者の選任を確実に実施 ・取扱対象化学物質の RA 実施と定着を推進した。 ・クリエイトシンプルによる評価への移行を進めた。		
物流安全	○物流事故、トラブルの撲滅を目指す。 (1) 事業所内物流トラブルの解析と水平展開の継続 (2) グループ会社物流部門との物流安全情報共有化 (3) 届け先荷役作業状況の解析と改善	(1) 物流トラブルの解析と水平展開の継続推進（「事業所内 充填・荷役作業のトラブル」削減への対応） (2) 監査等を通じた事業所内物流会社との対話強化《本社、工場》 (3) 届け先荷役作業における保安協定書の締結推進《本社》 (4) 原料受入れ作業における保安協定書の締結推進《本社、工場》 (5) 物流品質向上委員会の物流安全に関する取組みのフォロー《本社、工場》	(1) 物流トラブルの解析と水平展開の継続推進 ・トラブルの集計と解析を行い、トラブル情報の水平展開を行った。 ・事業所が輸送部会通じて構内協力会社に情報提供を行い、物流トラブルの再発防止を図った。改善が必要な場合、対応した。 ・充填荷役 LINK にて、充填荷役作業における情報交換を行い、労災災害と事故の撲滅に取り組んだ。	☆☆☆	(1) 物流トラブルの解析と水平展開の継続推進（「事業所内 充填・荷役作業のトラブル」削減への対応） (2) 監査等を通じた事業所内物流会社との対話強化 《本社、工場》 (3) 届け先荷役作業における保安協定書の締結推進 《本社》 (4) 原料受入れ作業における保安協定書の締結推進 《本社、工場》 (5) 物流品質向上委員会の物流安全に関する取組みのフォロー 《本社、工場》 (6) SP における荷役作業の実態把握と安全確保、物流事故発生時の連絡体制の確認と見直し《本社》
			(2) 監査等を通じた事業所内物流会社との対話強化 ・物流会社に安全監査を実施した。 ・物流事故を想定した訓練を協力して実施した。		
			(3) 届け先荷役作業における保安協定書の締結推進 ・客先での立会実態調査を継続した。 ・物流会社主催の路線便監査に参加した。		
			(4) 原料受入れ作業における保安協定書の締結推進 ・物流システムを活用し保安協定書締結状況を一元管理し、締結の推進を図った。 ・締結済み保安協定書を文書管理システムに保存するようにした。		
			(5) 物流品質向上委員会の物流安全に関する取組みのフォロー ・本社原料物流部主催の品質向上委員会に参加した（5、8 月）。		

	RC 中期計画 2026（2024 年～2026 年） （◆：「Grow UP 2026」KPI その他：RC 目標）	2024 年度 RC 活動計画 (MGC)	2024 年度 RC 活動実績	評価	2025 年度 RC 活動計画 (MGC)
社会との対話	○ステークホルダーからの評価向上を獲得し、信頼醸成を目指す。	(1)MGC レポート（統合報告書）とホームページの充実《本社》 (2)事業所環境安全報告書の発行推進 (3)社外からの評価受審の推進《工場》 (4)RC 地域対話、見学会など対話機会拡大の推進	(1) MGC レポート（統合報告書）とホームページの充実 ・統合報告書 2024、サステナビリティデータブック 2024、ホームページの内容を見直し、充実を図った。	☆☆☆	(1)MGC レポート（統合報告書）とホームページの充実 《本社》 (2)事業所環境安全報告書の発行推進 (3)社外からの評価受審の推進 《工場》 (4)RC 地域対話、見学会など対話機会拡大の推進
			(2) 事業所環境安全報告書の発行推進 ・環境安全報告書、環境安全レポートを作成し発行した。		
			(3)社外からの評価受審の推進 ・ISO14001 の外部審査、Tfs 監査、GHG 第三者検証、保険会社によるリスクサーベイを受けた。		
			(4)RC 地域対話、見学会など対話機会拡大の推進 ・地区 RC 連絡会全体会議、地元自治会の夏祭り、見学会(大学、高専、高校)、大学講師派遣など対応した。		
R C 全 般	○MGC グループ一体での環境安全活動推進を目指す。 グループ内コミュニケーションを充実し、労働安全・保安防災・環境経営の推進を図る。	(1)MGC グループ環境安全推進協議会、連絡会等を通じたコミュニケーションの充実《本社》 (2)グループの事故・災害情報共有システムのブラッシュアップと水平展開推進《本社》 (3)MGC グループ保安防災ガイドラインを用いた評価と改善の推進《本社》 (4)グループ環境保全活動の推進《本社》	(1)MGC グループ環境安全推進協議会、連絡会等を通じたコミュニケーションの充実 ・グループ環境安全推進会議を 2 回に分け、参加各社の報告、議論時間を増加させ、コミュニケーションの充実を図った。 ・定期的開催に加え、労災や保安トラブルに応じて訪問先を決定し、監査、連絡会議を実施した(監査 4 社、担当者連絡会議 4 社)。	☆☆☆	(1)MGC グループ環境安全推進協議会の活動を通じたコミュニケーションの充実 《本社》 (2)グループの事故・災害情報共有システムのブラッシュアップと水平展開推進 《本社》 (3)MGC グループ保安防災ガイドラインを用いた評価と改善の推進 《本社》 (4)グループ環境保全活動の推進 《本社》
			(2)グループの事故・災害情報共有システムのブラッシュアップと水平展開推進 ・グループ環境安全推進会議にて、全ての加盟会社が RC コードに沿った活動計画を作成、推進していることを確認した。 ・監査・担当者連絡会議も含めた機会での質疑応答、議論を通じて、RC コードへの更なる理解と推進に努めた。		
			(3)MGC グループ保安防災ガイドラインを用いた評価と改善の推進 ・グループ会社の監査、担当者連絡会議に使用する MGC グループ保安防災ガイドラインに基づくチェックリストの設問を実績に基づき修正追記すると共に、監査重点項目や個別設問を追加した。		
			(4)グループ環境保全活動の推進 ・MGC グループの環境保全データをホームページで公開した。		
	○RC 管理システムの継続的な改善を図る。	(1)社内・事業所内組織間の連携による、RC 管理システムの継続的改善	RC 活動における各部門との連携強化 ・環境保安室長会議、LINK リーダー会議を開催し、RC 活動の PDCA を廻すことに働きかけた。 ・RC 監査を 10 月から 12 月に実施した。 ・環境安全会議は 2025 年 3 月に開催した。		(1)RC 監査、LINK リーダー会議等を通じて、社内・事業所内組織間の連携による、RC 管理システムの継続的改善

- 1）重大労働災害　： 休業災害であって、死亡災害、永久労働不能災害を伴うなど障害補償の対象となった又はその可能性のある障害、休業日数が 4 日以上であるもの
2）重大事故　　　： 地域に係る環境汚染や地域住民が被災するなど第三者に脅威を与える事故、重大労災を伴う事故
3）廃棄物ゼロエミッション率：最終処分量/廃棄物総排出量
4）MGC グループ　：MGC+連結子会社